

2025年4月12日

人権ネットワーク八幡 NEWS

事務局 〒523-0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)
電話 【携帯】 080-2525-7114(高坂)
【メール】 Tko_koj1224@yahoo.co.jp

2025年度スタート

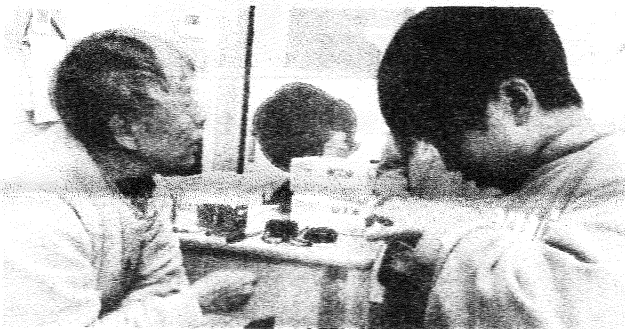
先月、石川一雄さんの訃報(3月11日逝去)がテレビなどで報道されました。再審の実現や無罪判決獲得のため、冤罪を晴らすご夫妻の活躍を願っていた矢先のことでした。86歳でした。

被差別部落への予断や偏見によって「冤罪」が捏造(ねつぞう)され、無実の人間が誤った捜査や判決で有罪となる、これほど恐ろしい人権侵害があるでしょうか。

86歳で生涯を終えた石川さん、しかし残された妻の早智子さんは再審の闘いを継続されます。本会へ何度もお便りをいただいた、石川さんご夫妻と今後も連帯したいと思います。

本会会員・本紙読者のみなさん、今年度もお付き合い頂きますようよろしくお願いします。

2月20日 北里小学校でレザークラフト教室



「レザークラフトありがとうございました。レザークラフトで作ったものは、何に使おうか迷っていますが、大切にします。けんぼーさんと高知県に住んでいるひいおじいちゃんと性格(ちょっと厳しさ)が似ていて、ちょっとおもしろかったです。

「レザークラフト体験、ありがとうございました。革製品を作るのは初めてで、できるか不安だったけど作るのが楽しかったです。

くつを作るところを見てみたいです。

たくさん分らなかったことがあったけど、ていねいに教えてくださりありがとう。おかげで最後まで作れてよかったと思いました。レザークラフト楽しかったです。自分のクツの長さは、27.0cmです。

「レザークラフト体験、ありがとうございました。全てのことが新しい体験で、とてもたのしかったです。これからも、色々な人に革製品を届けてください。

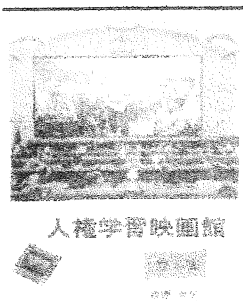
今日のレザークラフトでは、皆さんに助けてもらいながら、楽しく小物入れを作れてうれしかったです！とてもかわいいのを作ただけでなく、皆と協力して 絆が深められました！これから中学校でも使っていきたいです。

「5人分の草のミシンがけありがとうございました。小物作りは簡単ではなかったけど、がんばって完成できました。ありがとうございました。

とても楽しかったです。!!
世界に一つの物ができました。♡
ぜったい~いにたいせつにして、ずっとつかい続けます。♡
けんぼーさん、もしかしたらボタンがこわれたら電話するかもですwwwその時はお願いします。!!



北里小学校6年生のみなさんから「けんぼうさん ありがとう」というミニ文集を送っていただきました。多くのお手紙の中から一部だけ掲載させていただきました。子どもたちからのたくさんの「ありがとう」に感謝。元靴職人のけんぼうと本会のスタッフ一同こそ「ありがとう」です。



本紙連載中の「人権見て歩記」をまとめた冊子『人権学習映画館』の第6巻が完成しました。ご希望の方には無料進呈いたします（バックナンバーも申し込みめます）。ご希望の方は、下記までお電話くださるか、右のQRコードを読み取ってメールで申し込んでください。

渡邊幸平 ☎090-3351-0995



人権映画見て歩記

file 112

メキシコで大ヒットした映画『型破りな教室』を紹介します。

マタモロス小学校は凶悪犯罪多発地帯にある学校で、生徒のほとんどが貧困家庭です。全国学力テストでは毎年最下位であり、教員の給料はテスト結果に左右されるため、この学校を希望する教員はいません。ところが自ら希望してこの学校に赴任してきた教員がいます。テストの成績で一喜一憂する今の教育に疑問を感じていたフアレスです。彼は「子どもが自らの意欲で学習に取り組む教育」を実証するために、あえてこの教育困難校を志願したのです。しかしこの学校にはフアレスのやり方に共感する教師は誰もいません。チュチョ校長は、テストの得点力を高める授業を求めますが、フアレスは聞く耳を持ちません。



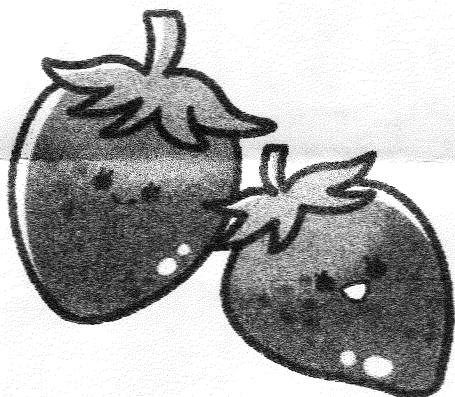
今年も新学期がやってきました。授業の初日、登校した子どもたちは、教室を海に見立て、机と椅子でボートを作って待っていたフアレスにびっくり。フアレスは「船が沈みかけている。助かるためにはボートに乗らなければならないが、乗れる人数が決まっている。さあ、どうする!？」と子どもたちに問いかけます。こうして始まった授業では、「なぜ船は沈まないの?」「物が水に浮くのはなぜ?」などの質問が子どもたちから続出します。フアレスはそれに対して、子どもたち同士の話し合いや実験を通して解決してみせます。子どもたちは授業に夢中になり、「疑問に思ったことを自分で調べて解決する力」を身に付けていきます。その過程を目撃したチュチョ校長は、フアレスの最大の理解者になっていきます。

登場する子どもたちに共通するのは、過酷な生活実態です。ゴミ捨て場に住んでいる子ども、ギャングの手伝いをさせられている子ども、子たくさん家庭で弟妹たちの世話に追われる子ども…。しかし誰もが無限の可能性を秘めており、フアレスの助言を通して意欲と才能を開花させていきます。映画のラスト、全国統一テストでフアレスのクラスは驚きの成果を収めます。才能を認められて「未来のスター・ジョブズ」と賞賛される生徒まで現れます。「そんなにうまくいくはずがない。これは夢物語だ。」と言う勿れ。実は2011年に実際にあった出来事の映画化というのですから、驚くしかありません。

(見て書いた人…渡邊幸平)

所内雑報

イチゴがシャーベットに 17



3月末、レンタル中だった朝鮮楽器が武佐小から戻ってきた。楽器とともに有機栽培のイチゴもいただいた。

「10万円商品券」ではないので、問題はないかと思って

この日、今年度最終の「人権ニュース」も出来上がっていたので、自転車の前カゴにイチゴパックと一緒にに入れて配ることにした。＊(そうそう、この号の鳥居新平さんの記事が、読みにくかったことをお詫びします)

さて、教育委員会へ寄って市内の学校分のニュースを配り終えて、ふっと前のカゴを見るとイチゴパックが横に倒れ、中のイチゴがペチャンコになっていたのである。

まるでシャーベットみたい(ひとり占めしようとしてパチが当たったのか?)。おまけに、一緒に入れていた封筒にも赤い染みがついてしまった。

噫～(ああ)、またやってしまった。深いため息をついて、それでもめげずに残りのニュースを持って、金田学区方面へママチャリかっ飛ばしたのだ。シャーベット状のイチゴは翌朝、食後のデザートにいただきました。カムサハムニダ、リエコ ソンセンニム(ハングルで先生)♡

(TK)

米.ら号で前後編を一気に掲載。